令和６年度 第２回庄内町振興審議会【会議録】

日　時：令和７年３月 28 日(金)18:30～20:30
場　所：庄内町役場Ｂ棟 2F 会議室２

出席者：門松秀樹会長、佐藤道子会長代理、斎藤克行委員、梅木均委員、秋葉正一委員、大滝敬一委員、川井利光委員、渡會正委員、渡部幸雄委員、渡部菜穂子委員、阿良直美委員、齋藤吉昭委員
（事務局）樋渡企画情報課長、我妻企画情報課長補佐、加藤主任
欠席者：なし

１　開　会　18：30　樋渡企画情報課長（進行）

２　会長あいさつ

前回の話題となったが庄内地域において、人口減少等について待ったなしの状況であり、若者、女性など地域にいかにとどまってもらうということを施策の中心にしている。庄内町の総合計画において次の 10 年どのようなまちづくりを考えていくか議論いただきたい。

３　協　議

(1) 第３次庄内町総合計画基本構想について

事務局：資料の確認、説明

【委員】基本理念の「選ばれる」は何に対して選ばれるのか、選ばれるものが何なのかが分からないので抽象的な感じを受ける。

【委員】「選ばれる」というのは死ぬまで住みたい、選ばれる、ずっと住みたいと捉えた。住みやすいから住みたいと解釈した。

【事務局】もともとの原案では「住みたい」「住み続けたい」など、ここにいる人、他に住んでいる人からもそう思われるという意味での案である。

【委員】今の説明を聞いて、誰がというのにいろんな意味を持たせて「人に選ばれる」というのはどうか。

【委員】他の地域から選ばれる魅力的なまちと捉えたところであり、そういう解釈でないとすれば文言を変えた方がいいのではないか。「地域資源」という言葉は固いので、やわらかい言葉とした方がいいのではないか。

【委員】3 つ理念があるが、保守的な印象を受ける。若者が夢を見られるように、この町に住みたいというインパクトがあるものがいいと思う。

【委員】若者の年代の定義はいくつか。

【事務局】第 1 回振興審議会で話題とした消滅可能性自治体で定義している若者女性人口でいうと 20 から 39 歳となっている。

【会長】社人研では 20 代から 30 代の方を若者として考えており、国のイメージとしてはそのくらいの年齢を対象としている。庄内町が対象としたい若者がこの年齢というのがあれば規定することはできると思う。

【委員】基本理念なのでこれでもいいと思うが、基本理念の中心を考えるべき。誰かから選ばれる主体に自分たちがなる、どうつながっていくか。安全安心はあまりにも消極的である。基本構想の中心は何かということである。そこに対して考えると「動く」ということを基本構想に入れたほうがいいと思う。「動く」を今風に表現すれば発信となると思うが、もっと町民や自分自身が主体的に動く、動いてほしい。まちづくりについて、町は活動を広げようとしているが、町民は他力本願であり、町がやってくれるのではないかという意識がある。町民が自らという形に変えていきたいがまだそれができない。余目地域の大きな集落はいいが、小さな集落は小集落連合としてそこに小さいまちをつくり、何か動きがあるシ

ステムにならないのかなと思う。まちづくりのための基本構想であり、そういうのがここにはない。いろんな構想がつながっていくような元となってほしい。

【会長】ただ今の意見は、まちづくりが一番の原点であり、まちづくりは役場がやることではなく、町民が主役となるべきである。それぞれの政策分野をつないで全体として何をしたいのか、どうつないでどう動こうとしているのかが基本理念であるべきであり、3 つの柱に共通して、何を目指してどこにつながるのかという意見であると理解した。

【委員】第 2 次庄内町総合計画では、未来へつなぐ笑顔と誇りとあったが、このまちをこれからも未来へつなぐ、住み続けたいという意味を含めてつないでいくことになろうかと思う。

【会長】未来へつなぐということがある意味象徴的になるということだと思う。基本理念について、つながりを掲げることがいいか意見をいただきたい。

【委員】集落の人口も少なくなっており、危機感を持っている。動きのある言葉を理念としてはと思う。

【委員】基本理念を否定するものではないが、地域には若者は 3 分の 1 しかいない。60 歳以上の家族が 3 分の 1、20 年のうちその 3 分の 1 がなくなる。危惧するのは一番人口を増やしていく年代の 20 人近くが独身である。彼らが子どもをつくっていただける条件があるなら将来的に高みを目指すこともいいが、現状を考えたら理念をあまり高くもつことは無理ではないかと思う。

【委員】人口を中心に構成も含めて考えていくべきであり、目標が高く設定したとき進めるときはいいが、5 年後に目標が遠くなってきたという感じを受けると思う。基本理念を現実にあったものとすべきではないかと思う。10 年後果たしてこの理念がよかったという評価になるのか。また、地域資源という表現が固いという意見があったが、文言からすると資源でなく環境であると思う。資源と聞くとモノとして捉えられるが、環境となるとふんわりとした印象となる。

【会長】実現可能性を視野にいれて辿りつける範囲を方向性として掲げたほうがいいという意見であると思う。環境は包み込んでいる周囲のものとして理解が得られるということであった。資源はモノだけでないものを含むのが学問的な理解である。地域資源が伝わりにくいので環境というほうが分かりやすいとう意見であろうかと思う。

【事務局】地域資源という言葉には人やモノなど含んでの表現としている。幅広い意味で町にはいろんな資源があるということ意味している。地域資源という言葉から思い浮かばないとすれば、別の表現を考えていかなければいけない。

【委員】第 2 次庄内町総合計画の基本理念を読んでいたが、達成度など検証をしているか。

【事務局】内部においては、第 2 次庄内町総合計画のベンチマークの実績あるいは直近の数字で評価を行っている。基本理念のような全体的な評価については難しい。

【委員】人口減少については逃れられない問題である。この辺は第 3 次庄内町総合計画においても大事な部分であると思う。

【委員】基本理念はこれでいいと思いながらも、表現が固い、理解できないことがある。2 点目のつながりについて、具体的にどういうことなのかと見えないところがある。例えば、若者といえば子育て世代と思うが、興味があるのは教育なのかなと思う。これから、基本計画等の検討があると思うが、基本理念や将来像にそういう部分が入らないと最終的なものにならないと思うので、物事を見えるような形としてほしい。

【委員】文化歴史という言葉があるが、人口減少で民俗芸能を継続するのが難しい中で理念とすることはどうなのか。

【会長】戦後の日本の大きな流れの中で、高度経済成長で若者がどんどん都会に出ていく、再開発を理由に農地がなくなるなど大きな流れや波があり、現在の地方の衰退があると述べている地方自治の研修者がいる。最後まで守らなければならないこと、ここがなくなると地域を支えられなくなるというのが「誇り」である。それが空洞化してしまうと、どんな施策を行っても人がそこを支えてくれなくなってしまうので、誇りの空洞化は避けなければならないと指摘をされている方もいる。伝統、歴史、文化は、その地域の持っている独自性や地域に対する愛着を育てていく上で非常に重要なことになってくるかと思

う。数値で評価する場合、何を行ったら伝統が守られているかが見えにくいものもあれば、観光客がたくさん来てお金を落としてくれるから地域のためになるなど分かりやすいものもあり、経済的な効果として必ずしも示せないのが地域の伝統的な芸能文化であると思う。歴史や文化、伝統は、そういった数値的な評価を行うことは難しい論点であると思う。大きな基本理念に掲げて、町民がそこに向かって動けるよう常に意識を持っていただくことも大切なことかもしれない。

【委員】陸羽西線は2年ほど列車が走っておらず代行バスでの運行となっており、何かできないかとずっと思っている。庄内町は風が強いことからトロッコ列車を走らせて風で動くような帆をあげて、その間に、亀の尾の試食や線路を歩く、トンネルの竣工状況もみるなど、線路を利用したイベントを行うことはできないかなと思う。基本は動くということであり、みんなで何かをすることで、いろんなものが動くということが何か構想としてあればである。

【会長】動くというときの具体的なイメージとして、陸羽西線など運行していない線路を活用する形で地域の紹介ができると思うが、具体的な施策のレベルの話である。文化や伝統もブランドという中に位置づけられるのではないかということか。

【委員】その根底にはこういうものが必要であるという意味で考えている。

【会長】「つなぐ」というキーワードは共通している。その地域の歴史、伝統など文化についても、失わせないような方向性が見える形にすべきとの意見である。この場で具体的な文言を決めることが難しいが、括弧に入る目指すべき方向性としては、1 つは「動く」で自分たちがやらなければいけないという意識を持ち、町全体も動くことが必要である。地域の人が「つなぐ」ということが必要であり、やや具体化すると、方針の中に子育てしやすいとか、教育が充実しているということを1つ掲げた場合、学校などの具体的な話となるのか、または子育ての充実、子育てしやすい町のような形となり、括弧の中に入れる意見を集約すると、大きな柱としては「動く」「つなぐ」「子育て」になると思う。

【委員】「子育て」ということであるが、育てる意味で後継者も含めて「育てる」というのはどうか。

【会長】子育てに限らず、いろいろなものを受け継いで未来につないでいく人を育てるということで、キーワードとしては「動く」「つなぐ」「育てる」の3つが基本理念の方向性を示すキーワードとしてはとの意見であった。

【委員】「安全安心」は少し固いワードではありながらも、この近年いろんな全国の状況を見るとやはり「安全安心」というのを自然災害に備えるということは外せないと思う。

【会長】「動く」「つなぐ」「子育て」以外に「安全安心」を入れるべきか、または「安全安心」については今後、具体的な施策方針や事業計画の中で示す形がいいかである。基本理念は必ず3つでないといけないのか。

【事務局】そのような決まりはない。

【会長】提案いただいた基本理念のうち 3 つが動詞であり、「安全安心」だけ言葉の質が違うということがあるかもしれないが、4つの次の10年間の大きな方向性としていくことも考えられる。

【事務局】今回の案の前提が、町民・中学生アンケートや意見書であり、そういった声を拾い上げたものであるが、読んで意味が伝わらなかったら全く意味がない。未来に希望が持てるような形で是非表現したい。但し、それが基本理念なのか将来像なのか、あるいは別の形で表すかもあるが、この審議会での委員の意見も参考としたい。

【会長】この基本理念ついては、「動く」「つなぐ」「育てる」3つ以外に、可能性として「安全安心」という柱を加えた4つを基本的な方向性とする。今後それを説明するための文章を考えていく。

【委員】今の4つでいいとは思うが、高齢者は安心のまちづくり、若い方は教育も含めて将来に希望を望んでいるだと思う。しょうない希望ミーティングのキーワードの中に「稼ぐまち」とあり、ある程度生活できるだけの稼ぎがないと希望を持てないと思うが、それを理念、将来像に入れるかはともかく、そのほかに経済的な部分も入ってもいいと感じた。

【会長】子育て世代が安心して子育てをするためには、経済的な安定性というものが重要となり、「稼ぐ」というワードが入ってもいいのではないかという意見であった。基本理念の中にいれるか、次の将来像、

10 年後の目標とするか、具体的な事業にするか、「稼ぐ」というワードをどこに位置づけるかという意見であった。

【委員】基本理念の中の「地域資源」と言葉には経済的な意味があると思った。魅力あふれる豊かなまちの「豊か」については、気持ちの部分もあるが金銭的なものであると思う。

【会長】資源という言葉が学問的に使われるときに一番わかりやすい話としては、可能性といったような場合の考え方が政治学上の資源、リソースと言ったときのイメージに近い。これをやるため、その裏付けになる何かというものが資源であり、モノに限らず関係性も含まれる。経済的な不安について、若者や子育て世代の方になぜ結婚しないのか、子どもを持たないのかということを聞くと、いわゆる非正規雇用とかで雇用が安定しない、経済的な安定性がないからとの回答であった。経済的な安定を維持するということは、安全安心な子育てをする上で欠かせない要素の 1 つであり、まさに子育て世代としての実感である。

【委員】「稼ぐ」ということを基本構想に入れることは難しいと思うが必要なことだと思う。庄内町の介護保険サービスについては、町場はそれなりに充実できるが立川地域であるときてくれる業者が少ない。そのような助け合いや介護保険の基となる精神をここに盛り込み、人が人を助けることをビジネスとしてできるようになってほしい。介護をするヘルパー、ケアマネも不足しており、介護士、介護福祉士など、人を助けることをビジネスとしながら、教育面も充実させることで、皆さんに来ていただけるようになると思う。まちづくりは町がやってくれることだけで人を呼び込もうとすることは無理である。町民が自覚をもって動き出すことでいろんなものが出来るという構想がいいと思う。

【委員】これからは、住民が何かで働けるような環境をつくり出す必要があると思う。高齢者で自分の持ち家がない人が将来をどう考えるかというと、このまま住み続けられるのだろうかと考える。福祉課に相談すると老人施設へと言われるがお金がかかるので、経済状況より民間のアパートに住むしかない。しかしながら、民間の大家さんは言葉が悪いが事故率が高いことを理由に貸してくれない。そういう不安を解消、ケアできるようなまちづくりで高齢者の方も安心して住める、住み続けられる。そういう地域であれば、高齢化社会の中でも若い方が希望を持てる地域づくりを基本理念にいれられるのではないかと思う。

【会長】例えば、「安全安心」の「安心」の部分に経済的な安定性や「稼ぐ」という要素を取り込むことができる。「安全安心」の「安心」とは何かを具体化していく中で、政策等で取り組むことでいいのでは。基本理念の振興審議会案として 4 つの柱を提示する。「動く」「つなぐ」「育てる」「安全」を基本の柱として、町民の方のアンケートや意見等々の内容等と合わせながら説明文をつくる形としながら検討する。

【委員】その意味も含めて、「魅力あふれる豊かなまち」という文言はとても素晴らしい文言であり残してほしい。それにつながるものが「地域資源」であり、いろいろな議論が行われているが、今言ったことが柱となり、基本理念の 4 つをうまく合わせられないかと思う。「稼ぐ」という言葉は、「豊かな」に含まれるのではないかと思う。

【会長】その説明の文章の中で、3 つめの「魅力あふれる豊かなまち」という言葉自体は、今後 10 年の目指すべきまちの方向性としては象徴的な文言である。これはこのまま残して基本構想の方向性の案に組み込んではどうかとの意見である。将来像の素案があるが、循環や発信と言葉をいれたいという意見もあるがどうか。

【事務局】基本理念の共通点を土台として案をまとめたところであるが、共生等はありふれた言葉であることから、循環や発信など入れ込むなどの話があった。参考まで第 1 次総合計画、第 2 次総合計画の内容も記載しているが、第 2 次総合計画では「日本一」という言葉が随所に出てくる。第 3 次総合計画において今後 10 年どのようなまちを目指すかという大きな将来像として、みんなで語り合えるものができたらと思う。

【委員】個人的には「循環」という言葉は好ましくない。その町だけで循環することは、コンパクトにまとまるということではいいのかもしれないが、今後人口減少となり庄内全域、山形県全体で生活していくということを考えると、町内だけで循環というのは違和感があると思う。

【事務局】町内だけで循環させるということではなく、内容によっては、広域や定住自立圏の中で解決するものがある。互いにすみ分けしながら協力すべきものはしていくものと理解している。同時に発信もしながらセットで考えられたらと思う。

【会長】恐らく循環は SDGs、持続可能な発展という意味であるが、発展をしていくためのサイクルがつながって回っていくという意味での循環だと思われ、町の中だけで完結する経済ではないと思われる。間もなくその SDGs を掲げている国連の目標が終わることから、次の 10 年後には別の目標としておそらくウェルビーイングになるのかもしれない。目標を立てたときはそれがブームであるがという懸念、可能性がある。

【委員】第 1 次、第 2 次総合計画の将来像は、比較的優しい言葉でわかりやすく、理解しやすい印象であったが、今回の素案は、漢字が多く理解しづらい。優しい言葉や理解しやすく、やわらかいものにしたほうが、みんなが分かりやすいものとなる。

【委員】第 2 次総合計画での「日本一住みやすい庄内町」という言葉を聞いたときに、目標はいいがあまりにも現実とかけ離れている印象であった。

【会長】掲げる目標が高すぎると実現可能性がないものになるため、ある程度達成ができる範囲としたほうがよいとの意見であった。文章的な表現の問題としての固い、柔らかいは別として、こういった地域の魅力やつながりを大事にするという根本的な方向性についてはどうか。表現としてはなるべく漢字ではなく、やわらかい日本古来の表現で単語ではない言葉を中心にした方がわかりやすいのではないかという意見であると思う。方向性としては、地域の魅力を大事にし、それを伝えていく、発信していくという内容も含まれるものであり、人と人のつながりである絆というものも大事にしていくそういうまちを目指すということである。共生については、おそらく山形県が目標にしている多文化共生という外国人の受け入れとか、そういったところなども含めて共生という言葉が使われているのだろうと思うが、例えば、循環や発信といったような要素を含むものに入れ替える、あるいは広い概念に置き替えるなど今後の検討が必要になるかと思うが、大きな方向性としては、内容そのものはこのとおりとし、表現を少し検討した方がよいのかということでいいか。

【事務局】振興審議会からの意見をこのような形にまとまりましたと最終的に答申としていただくものとなるが、それがそのまま理念になるかといえば必ずしもそういうことではないが、意見として参考としたい。

(2) 第 3 次庄内町総合計画施策方針について

事務局：資料の確認

【事務局】総務文教厚生分科会では、基本目標の 1、2、6 を担当、産業建設分科会では 3、4、5 を担当し、それぞれ重点的に議論を行っていただき、意見を集約して改めて振興審議会全体で議論するような形としながら施策方針の検討を進めていきたい。

(3) その他

【委員】基本目標の 1 の子育て環境について、生まれてから育てることの環境のことはあるが、子どもが生まれる前の婚姻などその町の人口が増えることについての内容が欠けている。結婚しない男女が多い中で、結婚して人口を増やすためのことについても考えることが必要ではないかと思う。

4　そ の 他

(1) 今後のスケジュールについて

〇庄内町振興審議会分科会（総務文教厚生）4 月 9 日（水）18:30～　庄内町役場 B 棟 2F 会議室 5

〇庄内町振興審議会分科会（産業建設）4 月 10 日（木）18:30～　庄内町役場 B 棟 2F 会議室 5

〇庄内町振興審議会　4 月 22 日（火）18:30～　庄内町役場 B 棟 2F 会議室 2

５　閉　会　20：45　樋渡企画情報課長（進行）